



15:1 さて、取税人、罪人たちがみな、イエスの話を聞こうとして、みもとに近寄って来た。

15:2 すると、パリサイ人、律法学者たちは、つぶやいてこう言った。「この人は、罪人たちを受け入れて、食事までいっしょにする。」

15:3 そこでイエスは、彼らにこのようなたとえを話された。

15:4 「あなたがたのうちに羊を百匹持っている人がいて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野原に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。」

15:5 見つけたら、大喜びでその羊をかついで、15:6 帰って来て、友だちや近所の人たちを呼び集め、『いなくなった羊を見つけましたから、いっしょに喜んでください。』と言うでしょう。

15:7 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。

15:8 また、女の人が銀貨を十枚持っていて、もしその一枚をなくしたら、あかりをつけ、家を掃いて、見つけるまで念入りに捜さないでしょうか。

15:9 見つけたら、友だちや近所の女たちを呼び集めて、『なくした銀貨を見つけましたから、いっしょに喜んでください。』と言うでしょう。

15:10 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、神

の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」

パリサイ人や律法学者にとって、罪人とは外面的なものであって、人々の心の内面や事情などは考えていませんでした。むしろ自分たちの立場が守られることで、自分は義人だと自負してたようです。

しかしイエス様は人の内面を知る方であり、立場ではなく1人1人と人格的に関わってくださる方です。神にとっては全ての人が罪人であり、また同時にいっしょにむべき存在であり、救いの対象なのです。

一匹の羊のたとえは存在の危機をテーマにしており、滅びからの救いです。私たちはこの迷い出た羊でしたが、今は主のもとに「帰って」、「喜んで」いただける存在です。

一枚の銀貨のたとえは目的の危機をテーマにしており、機能不全からの回復です。人間は神様のもとにあってこそ目的と使命が果たせるのに、それができなくなって人生に価値がなくなってしまったものですが、主が見出してくださったのです。私たちは主の手にあるので、「喜びがわき起こる存在となることができました。」

主に見出され、滅びから救いに、無目的から使命へと、自分自身を変えていただいたことに感謝しましょう。そのような自己像を新たにしましょう。そのような者としての生き方を選び取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

